

日本と水彩畫

九山 曉 霞

清楚淡白なる日本人の性質として、清雅瀟灑なる淡白の水彩畫を好尚するは寧ろ當然である。この先天的性質は日本の自然即ち風景より尠なからざる感化を受けて居る。

日本は細長き一大島國にして氣候溫暖なり。地質は火成岩及び水成岩で出来て居るから、名山奇巖は至る處に點出され、天工の絶妙を極盡して居る。加ふるに四面皆海、寒暖に潮流の駛走、或は貿易風季候風が水蒸汽を拉し來て降雨適量に、草木發育して其の種類至て多く、美しき花は其の季につれて到る處に開發し、又は水蒸氣に依て起る諸現象は、雨となり雲となり霧となり霞となり雪となり霜となりて月雪花の勝地は何處にもある。譬へば日本を裸體とせんか、古希臘にありて體格の美を誇示した圓滿なる發達をなせし勇者の如く、或るものはビーナス女神の如く裸體既に美を盡せり。この美なる裸體に纏ふものはそも何であるか、春にありては婉麗なる花、殊に他國に見ざる日本絶特なる櫻花の爛熳たるあり、夏にありては滴るばかりなる瀟灑の蒼翠は、潤澤を帯び辭として全面に纏ひ、瀟灑なる霜葉の秋之れ又他に見ざる日本の天恵である。純潔なる雪の冬等時々にし脱き替へる華麗無汚の衣である。衣又既に麗を盡せり、美しき體に美しき衣を纏ふたら恐らくこれ以上の美はあるまい。その上彼はくさくさの花より發する天香を放ち彼のさしやぎは百鳥千鳥の囀歌にして天樂を奏するやうである。これが日本帝國にして、これを何と形容すべきか、優和、婉美、明麗、溫軟、瀟灑、清雅、淡白、瀟灑、あらゆる形容詞を並べればならぬ。實に日本の風光は美の精である。造化は世界の國々に見ざる天工の美を日本國に鍾めたるなり。一度日本に遊びたる外客は讚美のあまり宛然たる世界の美園國といふて居る。殊に日本の地域が狭小であるから、人の膽を奪ふやふな巨嶽大河斷巖絶壁なし、狭小なる溫雅優美の景に富んでゐる、かゝる風光に圍繞されたる日本人の自然美嘆賞の念があふれて、或は短詩となり、或は短歌となり、或は淡泊なる繪畫となり、又は音樂となるのである。日本人の性情が濃厚繁縟を嫌忌して之れ等を排し、若翠潤澤清淨潔白たる秀麗の風光に感化され、こゝに日本的一種の特調を凡ての上に現はしたのである。(つゞく)

△繪畫鑑賞法の一節

畫家或は谿谷湖水山嶽水邊等、平常目撃する處のものをとり來りて其儘を描寫し、敢て毫末の思想感慨を加ふる事なし、これ山水を己れが有とする能はざるが故に之を摸して以て樂むといふに過ぎず。即ち一たび杖を曳きし地を記憶するの用に供すべく、吾人が行旅の途次購求する數葉の寫眞と毫も其用を異にせざるなり。之を應接間の壁間に掲げて以て壁紙の破罅を掩覆するも可なり、藝術の世界は爲めに一の益する處あるなし。

* * * *